



## 副鼻腔炎（ちくのうしょう）

2021/5/1

最近では日頃の感染予防対策に伴い、感染症が例年よりも少ない傾向にあります。今回の感染情報トピックスでは、最近当院でよくみられる副鼻腔炎についてご紹介していきたいと思っております。

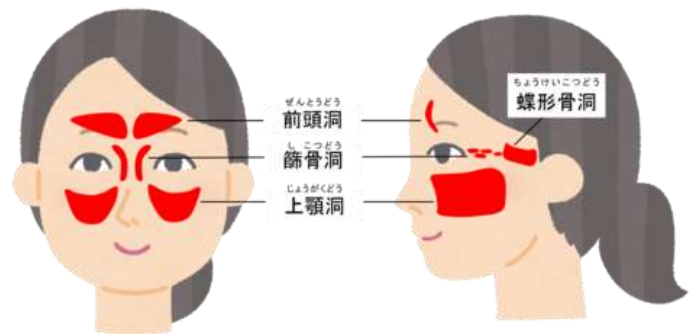
### 副鼻腔炎とは

鼻の周りにある骨の中に「副鼻腔」という空洞があります。そこに細菌やウイルスが感染し増殖する事により、膿が溜まって炎症を起こす病気です。

また、アレルギー性鼻炎による鼻汁が溜まる事で起こるとも言われています。アレルギー性鼻炎などによる鼻水は、サラサラとしている事が多いですが、副鼻腔炎による鼻水は、粘り気のある鼻水で、鼻水が喉に流れるとイガイガ感があり、痰が出る場合があります。

### 症状

- ・発熱
  - ・長引く咳や痰
  - ・鼻水、鼻づまり(ネバネバとした黄色)
  - ・頭痛
  - ・頬のあたりの痛み
  - ・目の奥の痛み
  - ・食べ物のおいしさや味がわからない
  - ・周囲の人が異臭や悪臭を感じる
  - ・集中力が続かない
- etc…



### 治療

まずは、症状に合わせた対症療法をします。発熱時には、解熱剤を使用し、咳や痰には、咳止めや去痰剤を使用します。

また、発熱がなくても、長引く咳や膿性鼻汁(緑色や黄色など)の症状がみられた時は、抗生剤を使用する場合があります。また、副鼻腔炎を繰り返す場合には、2～3か月の抗生剤の少量持続投与を行うことがあります。

### 予防

風邪が長引かないようにし、鼻づまりを長期間放置しないようにしましょう。適宜鼻かみ鼻吸いをします。アレルギー性鼻炎のあるお子様は、普段から内服や点鼻などでコントロールを行うようにしましょう。

